



「想像力のスイッチを入れよう」 情報との接し方を見直そう

5年生が1月に学習した国語教材のタイトルです。この説明文を書いたのは報道アナウンサーとして、長くマスメディアで情報を伝えてきたジャーナリストの下村健一さんです。

教科書では、「次期サッカー監督の噂」のニュースをもとに、情報の見方について書かれています。この文章では、情報を受け止めるときに大切にしてほしい四つの「想像力のスイッチ」を挙げています。つまり、①『まだ分からないよね』、②『事実かな、印象かな』、③『他の見方もないかな』、④『何がかくれているかな』の四つです。筆者はこの四つの視点を活用して自身のホームページで、「新型コロナのデマ・ウイルスには「ソ・ウ・カ・ナ」が効く！」と下記のことを書いています。（一部抜粋）

これからデマに接しても感染しない、《予防》法は？ ただ「気をつけて」と言われてもどうすれば良いのかわからないが、実は、かなりよく効く“4つの呪文”ワクチンがある。今回実際に出現しているデマ・ウイルスのパターンを例に、見ていこう。

【呪文1】「まだわからないよね？」……[ソ]ク断するな

基本中の基本。初耳の情報と出遭ったら、とにかくこれをつぶやいて、一旦止めよう。「実は史上最凶のウイルスと判明！」「予防には●●を飲むといい！」などという、それだけ見てもホントかウソか見分けがつかない情報は、とりあえず保留する。

【呪文2】「報告かな、意見・印象かな？」……[ウ]呑みするな

情報には、《報告》と、それを伝えている人の《意見・印象》とが、ゴッチャになっていることが多い。そのままウ呑みにせず、ちゃんとこの2種類を仕分けよう。「武漢には病原体研究所があり、そこからウイルスが漏れたのかも」と聞いても、「そうなのか！」とウ呑みせず、まず仕分け。前半部分（研究所があるという報告）は数年前の他メディアの記事も添えられているから、どうやら本当かも知れないが、後半（そこから漏れた）は、証拠が示されていない。つまり、その情報を発した人の1つの推測（意見・印象）だな…と、何も自分で新たに調べなくても、見分けることができる。そこをきちんと分けないと、早とちりして末尾の「かも」をスッ飛ばし、「そこから漏れた」と自分で断定的に思い込んでしまうから、要注意！

【呪文3】「他の見え方もないかな？」……[カ]タよるな

1つの情報源から聞いただけで、話を決めつけないこと。「感染対策で東京オリンピック中止」といった情報を見ても、あわてて拡散する前に1分でいいから、他の情報源でも同じ話が流れているか、見てみよう。

ポイントは、《人数ではなく、情報の種類の数でカウントする》こと。検索で同じ話が5万件ドットと並んでも、ネタ元が複数見出せなかったら、それは「5万ではなく、1」と数えよう。「大勢が言ってるから本当だ」などという判断基準は、持たないこと。地味な事実より派手なデマの方が、多くの人が反応してしまう可能性があるのだから。「こんな重大な情報が、1つの出所だけに片寄っている。これはデマかも…」と、思いとどまるべし。これから増えていく精巧なフェイク動画にも、この判断方法で向き合おう。どんなに本物っぽく見えても、「1」でしかない（他の裏付けが何もない）うちは、100%は信じ込まぬよう、要注意！

【呪文4】「隠れてるものはないかな？」……[ナ]カだけ見るな

別に悪意のデマや隠ぺいでなくても、情報というものは元々、全て“スポットライト”だ。そこには必ず、“周りの暗がり”がセットで存在する。だから、照らし出されたスポットライトの中だけ見て「これが全てだ」と思い詰めず、周囲にまで想像の窓を広げよう。

「致死率3%」という情報はデマではなくても、死者にだけスポットライトを当てている。そこだけ見ると、「新型肺炎は死んじゃう病気だ！」という感覚がふくらんで、実数以上の過剰な恐怖心に囚われる。その時、視野の外に97%の生存者がいることに思い至れば、（油断せよとは言わないが）この情報の受け止め方は適正な警戒レベルに落ち着く。

これからデマ・ウイルスに感染しなくなったら、不確かな情報に出会うたび、以上4つの呪文ワクチンをつぶやいて「ソ・ウ・カ・ナ」（ソク断・ウ呑み・カタ寄り・ナカだけ）の自戒をしっかりと励行しよう。他力本願で、いちいちファクトチェックの対症療法薬に頼ってばかりいないで、まずは自分の体質改善だ。

コロナ感染症が身近に感じるようになった1月でした。そのためか、授業を見ながら、自分自身の情報との接し方を考えさせられました。それは、コロナ差別を防ぐためには、メディアからの情報だけでなく、うわさ話も含めてまず大人が情報に振り回されないことが大切だということです。そのためには、教科書にあった①『まだ分からないよね』、②『事実かな、印象かな』、③『他の見方もないかな』、④『何がかくれているかな』という4つのポイントを意識する必要があります。

最後となりましたが、お子さんの健康管理の今まで以上に丁寧な実施や、登校後の体調不良時の素早いお迎え等、保護者の皆様の意識の高さやご協力に感謝しています。現在のところ、子どもの学習に関することは、感染症対策を強化して、実施しています。1月の学習参観のように予定を変更する場合もあるとは存じますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。